

# 校正記号

校正とは、誤字や脱字などの誤りをチェックし、文章の体裁や書体を整える作業のことをいいます。大学では担当教員やゼミの先生から、提出した原稿に朱書きで誤りを指摘されたり、訂正を加えられたりすることがあります。その際、よく用いられるのが校正記号です。校正記号の意味を知ること、正しく効率的に文章を修正することができるので、皆さんも校正記号に馴染むようにしましょう。

## 校正記号の例

提出日：2019年7月10日

2019年度春学期科目「言語学概説Ⅰ」（月曜Ⅰ限）レポート

### インターネット上の書き言葉

××学部△学科 1年1組 19x0123 法政太郎

インターネット上には、無数の言葉がまさに蜘蛛の巣のように張り巡らされている(1)。グローバルなコミュニケーション空間は、英語(米語)が「公用語」となっているように見えるが、以下のような指摘もある。

一方、インターネットの世界的普及は、必ずしも文化の画一化やアメリカ化の促進だけを意味するものではないという見方もある。反対に少数民族の文化やマイノリティ集団に対し、それぞれの自己表現の機会を提供するものであるとするのである。(上村ほか2005:3)

また、「ブログ検索サービスを提供する米テクノロジーが4月5日に発表した調査結果によると、2006年第4四半期は投稿数で日本語ブログが世界最多だった」(武部2007:第1段落)という記事もあり、実体としては、母国語によるインターネット利用が中心で、いわば言語別のコミュニティが形作られているのではないかと考えられる。さて、インターネットでは動画も音声も配信できるが、現在のところ、文字による発信情報やコミュニケーションが基本的であるといつてよいだろう。

しかし、そこでは単に「書き言葉」とはいえない多種多様な言葉遣い、一般的な書き言葉というよりも話し言葉に近い、独特な「書き言葉」が使われる傾向がある。たとえば、田中(2008)によれば、…

- 1 -

はできないだろう。そして研究方法の上でも、WWWのコーパス化以外に、インターネットは言語研究に新たな世界を切り拓く可能性を秘めていると考えられる。

注  
(1)インターネット上のウェブシステムを指す「World wide web (WWW)」という語に使われ、その略称でもあるWEB(ウェブ)という言葉は、もともと「蜘蛛の巣」を意味していたが、ハイパーリンクによって、ページやファイルのつながる様子が蜘蛛の巣のようであるため、インターネット用語としても用いられるようになった。

参考文献  
Biber, Douglas, Susan Conrad, Randi Reppen, 1998, *Corpus Linguistics: Investigating Language Structure and Use*, Cambridge: Cambridge University Press.  
上村圭介・原田泉・土屋大洋, 2005, 『インターネットにおける言語と文化受容』NTT出版。  
荻野鋼男, 2008, 「WWWをコーパスとして利用する研究一文系と理系の観点から」『日本語学』27(2): 4-9。  
武部健一, 2007, 「記者のつぶやきー英語を超えた日本語ブログの投稿数、その理由は?」, ITpro(日経BP社), (2014年1月17日取得, <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20070411/268068/>)。  
田中久美子, 2008, 「ケータイ小説の表現は貧しいか」『国文学：解釈と教材の研究』53(5): 38-45。

(総字数 2015字)

- 3 -

上付き文字にする

文字の挿入(この例では中黒「・」)

文字の修正(2文字以上の場合)

文字の修正(1文字の場合)

改行する

文字の削除(2文字以上)

文字の削除(1文字)

字句の入れ替え

改行をやめる

指示(文字の修正)の取り消し

字間を詰める

小文字に修正

大文字に修正

2行目以降を2字分字下げる

イタリックに修正

2行目以降を2字分字下げる

ダッシュに修正

レポートの書き方

※仕上がった校正後の最終提出版はpp.47-47のレポートになります。